

東京美術倶楽部には開場を待ちかねるお客さまの行列が…



第29回「大刀剣市」を開催 71店舗が出店、3000人で賑わう

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



2017.1.15 No.33

発行人 深海信彦
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
http://www.zentosho.com/

第33号編集担当
赤荻 稔 飯田 慶雄 伊波 賢一 大西 芳生
大平 将広 木村 隆志 嶋田 伸夫 清水 儀孝
生野 正 瀬下 明 瀬下 昌彦 玉山 真敏
土子 民夫 網取 譲一 土肥 富康 服部 暁治
深海 信彦 松本 義行 賀真 吉也 持田 具宏

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの感動も覚めやらぬ中、第二十九回「大刀剣市」が十一月十八〜二十日の三日間、美術の殿堂・東京美術倶楽部で開催されました。大刀剣市は全国刀剣商業協同組合が主催するイベントで、組合員なら一定の条件をクリアすれば、出店できるシステムです。五月の総会後、理事長名で「大刀剣市」実行委員会が立ち上がり、六月半ばに出店希望者を募ったところ、今回は七十一店舗の希望がありました。

例年七月の組合交換会から方々ログ掲載用の写真撮影のため集荷をしていましたが、今回より理事会決議で出店者自らが撮影に立ち会うか、写真を用意していただくことになりました。初めての試みで手数ではありましたが、事故防止を最優先し改善させていただきました。今回は三日間で延べ約三千人

の来場がありました。十月二十三日に事前説明会を開催したおかげで、初日オープン前に十分程度の朝礼をした後、お客さまをお迎えできました。午前十時の開場を前に寒中、一階ホールでは大勢の皆さまがオープンを待ちかねていました。恒例の三階重文室での特別企画では今回、「真田丸」と『おんな城主直虎』の時代の刀」と銘打ち、その時代の名刀の数々を堪能していただきました。今回から次年度のNHK大河ドラマのテーマも先取りして取り入れることとしました。

四階会場では全日本刀匠会のご協力で刀匠による銘切り実演が行われ、製作された新作刀や小品などの展示と併せ、根強い支持を得ていました。また同会場では「我が家のお宝鑑定会」が例年通り開催され、お宝を持ち寄ったお客さまは、評価鑑定委員の懇切丁寧な説明に一喜一

憂しておられました。大刀剣市は初日から産経新聞社とフジサンケイビジネスアライヴの両社が後援を頂いてきました。そんな縁もあって、先天性心臓病などに苦しみながら経済的な事情で手術を受けることができない子供たちを救うため、産経新聞社が提唱して設立された「明美ちゃん基金」に微弱ですが協力しています。今回もご来場者や出店者の方々から頂戴した浄財を、同社に寄託しました。

今年で三十回を迎える大刀剣市ですが、実行委員会の実働部隊の顔ぶれは初期からおおむね変わっておらず、平均年齢が六十歳に迫っています。今こそ若い力が必要です。我こそはと思う方は、ぜひ実行委員として参加され、お力とお知恵をお貸しください。なお、今年の大刀剣市は十一月十七日(金)〜十九日(日)に開催します。ご来場をお待ちしています。(大刀剣市「実行委員長・清水儀孝」)



数社のテレビ局も取材に訪れた



父子連れで訪れた海外からのお客さま

「産経新聞」平成28年12月23日

刀剣・書画・骨董

和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511

<http://wakeidou.com/>

美術刀剣・刀装小道具商

やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回位発行予定
購読料10回 2,000円(郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作一式

柳匠堂

柳村宗寿

岡山市北区平和町二一八
TEL 〇八六一二二三一三三一九
工房 岡山市北区磨屋町七二二
TEL 〇八六一二二三一三三一九
FAX 〇八六一二二三一三三一九

刀剣古美術

三峯美術店

町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六六一二
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 〇四九四一三三三〇六七
FAX 〇四九四一三三三〇六七

美術刀剣、小道具、武器類の
売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会

吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二一七一
TEL 〇六一六六三一三二二〇
FAX 〇六一六六四四一五四六四

刀 剣 界

「大刀剣市」カタログ制作夏の陣物語

「大刀剣市」のカタログ制作は、毎年夏の暑い盛りが始まります。従来は、撮影される商品は交換会会場で集荷され、大刀剣市実行委員会と青年部が撮影場所に運び、そして撮影後に返送または手渡しで返却していました。

しかし、高額な商品の破損や紛失、撮影中に起こり得る事故などを考えた場合、組合が弁償しきれぬものではないし、集荷と輸送に伴うトラブルについては、作業に携わる誰もが常に心配していました。

この集荷に関する業務については本年度から、出店者自らが、刀装・刀装具などは撮影会場の組合事務所、刀身は藤代スタジオへ、甲冑は大石カメラへ持ち込むという方法に変更されました。自ら品物を運んで、刀剣以外の品なら撮影にも立ち会うこともできるわけですから当然、事故の可能性は下がり、紛失や取り違えの心配もなくなりました。

今まで事故が起きなかったことは、むしろ不思議なくらいです。遠方の出店者の皆さんにはご苦労が多くなってしまったとお察ししますが、ご協力により、また一つ問題を解決できましたことは大きな成果です。

この変更に伴い、新しく導入されたことがもう一点あります。それは出店者が自ら商品撮影し、データを印刷所に持ち込むことが可能になったことです。また、写真撮影環境により、写真の統一性がなくなってしまうのではないかと結果としてカタログのクオリティが低下してしまうのではないかと、の心配も聞かれましたが、出来上がったカタログを見る限り見苦しい箇所はありません。他店と違つて写真であることは、それはそれで個性であり、オリジナリティでもあると考えるのが良からうかと思えました。

来年、再来年と年々写真に工夫がなされて一段と進化・成長して

いくことを切に望むところです。さて、今回の撮影は七月八日から組合事務所と藤代スタジオ、大石カメラの三カ所で行われました。組合事務所の現場には、周りの景色が商品に写り込まないように、あるいは自然な光線が写せるように工夫を凝らしたセットが設置されました。カメラマンと助手、

印刷所の社員二名、実行委員スタッフと出店者が顔をそろえ、緊張の作業のスタートです。出店者からも商品の配置、強調する部分など、撮影の要望を聞きながらアングルを決めます。万一、商品が傷ついたり破損させては大変なことですから、細心の注意が払われます。

このようにして、刀装・刀装具の撮影が延べ六日間、刀身の撮影は一月にわたり行われました。八月九日、最初の編集会議が組合事務所で開催されました。その後の編集作業を経て、校正は印刷所での出張校正です。九月十三日に初校、その三日後の十六日にはもう再校でした。この間はカタログ編集委員も印刷所も団結の精神で、細部にわたってチェックを行います。何しろ大刀剣市開催の一月前にカタログの発行を予定しているのです、少しの油断も許されません。それでも九月十六日の再校で、凡ミスとも言える間



熱がこもる出張校正の作業風景

違いが発見されるなど、完璧を期すことの難しさをしみじみ感じさせられました。さらに、今回から個人撮影の写真が採用されたこともあり、九月二十七日の色校正も困難を極めました。暗かったり明るすぎたり、照明の具合によっては赤く写っていたり、青く写っていたり。これらを統一性を持たせて修正するには、経験と勘に頼るところが多かったと思います。

九月二十九日の念校をもって長かったカタログ制作の作業は終了となり、いよいよ印刷から製本という最終工程に入りました。実行委員全員が大きな間違いがないことを願って、完成したカタログが届くまで気が気ではありません。出来上がったカタログを手にした時は本当に嬉しいものです。ホッとした気分にもなります。

少しでもきれいに、完成度の高いカタログを作ろうという熱意で担当委員は働いています。今年も暑い夏が訪れるころには、また大刀剣市の準備が始まりますので、皆さまのご指導とご協力を願いたいと思います。(生野正)

が足りず、角度も期待とは相違していました。そこで、青年部の大平将広さんに照明担当になってもらい、より良い条件で大刀剣市が開催されるよう、東貨社との折衝に当たっていただきました。大平さんの熱心な研究と度重なる打ち合わせにより、従来の照明と遜色ないもので開催できました。若い組合員がこのように率先してしかも無償で組合事業に参加してくださることは実に頼もしく、またうれしい限りです。

実行委員と出店者各位の協力の下、来場者も景気に左右されることなく、連日多くの愛刀家や賑わった第二十九回大刀剣市でした。今年の大刀剣市は、例年通り東

第二十九回「大刀剣市」が十一月十八・二十日の三日間、東京美術倶楽部で開催された。全日本刀匠会関東地方支部は今回も全国刀剣商業協同組合のご厚意で会場を提供していただき、私も一員として参加することができた。

今回は二日目の午前中が雨だった以外は穏やかな天気だったこともあり、多くのお客さまで賑わった。三日連続で来場された熱心な方も多く、入場者数は三日間で三千人に及んだという。

今回の来場者を見ると、昨年に引き続き女性の姿が目立った。オンラインゲーム「刀剣乱舞」の影響だが、詳しく話してみると、刀自体の美しさに魅せられている方も多いことがわかった。行動力も抜群で、夜行バスを使って遠くの美術館にお目当ての刀を見に行くこともあった。

現在百万人を超えるというゲームユーザーだが、その千人に一人でも刀剣ファンとして残って、ご自身だけではなくいづれお子さんやお孫さんにも刀の良さを伝えてもらえればと願っている。

多彩なお客さまに刺激される

例年通り海外からのお客さまも多数訪れていた。海外の刀剣ファンにとって大刀剣市は年中行事の一つに組み込まれているようで、これに合わせて仕事の予定を立てると話していたのが印象的だった。そのような海外の方は、筋金入りのファンが多く、フランスから来られたお客さまが流ちょうな日本語で刀の専門的なお話をされたのは本当に驚かされた。

毎年恒例の「我が家のお宝鑑定会」や「現代刀匠による銘切り実演」も大人気で、今年も多くのお客さまが訪れていた。刀匠会のブースは、数年前から拡張され、当番の刀匠の作品が展示してあるが、自分の作品をお客さまに直接見ていただき説明できるのは、個人的にはとても素晴らしいことだ。

特別企画としてNHKの大河ドラマにちなんだ「真田丸」と「おんな城主直虎」の時代の刀も開催され、その時代の名刀が数多く展示された。来場者は、ドラマの時代に思いをはせるように熱心に見学されていた。

三日間という短い期間ですが、これだけのイベントを盛大かつ安全に運営できたのは、関係者の方々の多大なご尽力の賜物です。今年は、記念すべき第三十回大刀剣市です。今回以上に魅力的に、ご来場者の方により感動していただけるように努力していきたいと思えます。

当組合の最大の事業である「大刀剣市」の実行委員会は毎年五月に立ち上がり、各部門ごとに担当者を選任され始動します。開催が近づくとつれ、愛刀家の方々からは「毎年の開催を楽しみにしています」とか、「カタログを見て過ごす時間が多くなり、季節を感じます」などのうれしいお声を聞かせていただいています。カタログ制作に当たり、従来は七月に出店者より掲載品を預かり写真撮影を行っていましたが、今からその方式が変更になりました。刀装具類は撮影日に合わせて

指定場所へ持参していただき、撮影に立ち会い、終了後に持ち帰っていただくこと。刀剣も事前に予約を入れた上で、直接持参していただくこととしました。高価な刀剣類を実行委員会の担当者で預かり、一人ないし二人で移動させ撮影に臨んでいますが、幸いにも今まで事件や事故に遭いませんでした。万一何かが起これば大刀剣市の開催さえ危ぶまれます。

集荷方法の変更について、出店者の方々に十分な説明が行えなかったことから、次回は大刀剣市へ

準備を進めてきましたが、開催近くになり用意されたものが今まで使用していた照明と比較して明るさ

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
株城南堂古美術店
 代表
田中 勝憲
 〒153-10051
 東京都目黒区上目黒四-1-110
 TEL 03-371-0167
 03-371-0167
 FAX 03-371-0167



全日本刀匠会関東地方支部の面々による銘切り実演

(全日本刀匠会関東地方支部・森光廣)

報告「『真田丸』と『おんな城主直虎』の時代の刀」展

二〇一六年の「大刀剣市」の特
別展示は「真田丸」と「おんな
城主直虎」の時代の刀」展と題
し、刀十二振、脇指三振、短刀四
振の計十九振、そして兜と胴に真
田六文銭紋が蒔絵された具足が展
示されました。

真田丸とは、真田信繁が大坂冬
の陣で、大坂城の本丸から南半里
ほどの地点に設けた要塞です。難
攻不落をうたわれた大坂城の南方
の弱点を補い、さらには徳川方に
打撃を与えんとする狙いがありま
した。

規模二百メートル四方の真田丸
に徳川方の前田利常・松平直忠・
藤堂高虎・伊達政宗・井伊直孝
(おんな城主直虎の養子直政の子)

「真田丸」と『おんな城主直虎』の時代の刀」展の会場



「真田丸」と『おんな城主直虎』の時代の刀」展 出品目録

刀 銘	土州宗国 天文三年八月
刀 銘	高天神
刀 銘	兼房 (金象嵌銘) 七ツ胴落 延宝九年二月廿八日 切手中西十郎兵衛如光 (花押)
刀 銘	備前国住長船孫右衛門尉清光作之 永禄五年八月大吉日 (附) 六文銭紋散鞘衛府太刀拵 (真田家伝来)
刀 銘	日州古屋之住実忠作 永禄九年七月廿二日
刀 銘	南都住金房兵衛尉政次 永禄九年八月日
刀 銘	備前国住長船五郎左衛門尉清光 永禄十一年二月日
刀 銘	備前国住長船治衛門尉清光作 元龜三年八月吉日
刀 銘	備前国住長船清光也 天正三年二月日
短刀 銘	備中国荏原住国重 天正六年八月吉日
刀 銘	備前国住長船新拾郎祐定作 天正十年八月吉日
短刀 銘	城州埋忠作 天正十八年三月日
刀 銘	肥国忠吉 慶長六年八月吉日
刀 銘	国広
短刀 銘	国広 (庖丁正宗写し)
脇指 銘	国安
脇指 銘	肥前国住源忠吉作 慶長十年八月吉日
短刀 銘	平安城堀川住弘幸 慶長拾三年九月日
平造脇指 銘	平安城住国路 慶長拾七年吉日
黒漆塗六文銭紋時給南蛮胴具足 (附) 黒漆塗桃形兜	

が押し寄せますが、空堀の上に
二重の柵が巡らされ、犬走りには
鉄砲部隊が置かれ、四隅にも死角
を防ぐべく銃三挺が備えられるな
ど、工夫が凝らされた出城は意外
にしたたかで、城壁を登らんとす
れば銃弾を浴びせられ、二重の柵
を前に身動きが取れなくなると
ころを銃撃され、たまたま退却す
れば追撃され、徳川方の大損害は
計り知れず。老練な家康も、真田
信繁の智謀に舌を巻き、「敵なが
らあっぱれ。何としても味方につ
きたい」と思ったほどだったよう
です。

おんな城主井伊直虎は天文初め
ごろ、遠江国井伊谷城主の井伊直
盛の娘として生まれた人物で、関
ヶ原合戦で東軍先鋒を務めた猛将
井伊直政の養母と伝えられていま
す。有力大名今川の旗下にあった
井伊家ですが、陰謀に巻き込ま
れ、また桶狭間の戦いで当主が戦
死するなど、一時は存亡の危機を
迎えます。このとき、僧籍にあっ
た直虎は還俗して当主となり、家
を立て直そうと懸命に努めます。

今回は井伊直虎が誕生した天文
年間から、真田信繁が討ち死にし
た大坂夏の陣までの時代の刀工の
作品を年代順に展示しました。
展示された刀には刀工たちの
波動が脈打っているようでした。
「こういう刀は本当によく斬れる
んだよ」「いい出来だなあ」「こ
ういうの欲しいね」などと談話し
ながら鑑賞している方、一人黙々と
キャプションや真田丸の絵図、系
図に見入っておられる方、皆さま
は思い思いに楽しんでおられるこ
様子でした。

毎回参加、毎日来場の方もいて賑わう

第二十九回「大刀剣市」では三
日間の期間中、今回も「我が家
のお宝鑑定会」を開催しました。

昨年同様、事務局のサポートを
受け、大林幹夫氏、中村栄次氏と
私赤荻が担当しました。評価鑑定
に関しては例年通り、深海理事長
以下、理事全員が時間制で担当し

ました。
今回は受付件数が八十一件と、
昨年の七十二件に比べて若干増え
ています。その方々にアンケート
を実施しました。昨年までは、お
宝鑑定を知ったのは新聞がずっ
とトップでしたが、今回はインタ
ネットが新聞とほぼ同数でした。

中にも毎年参加しているという方
が三十一人おり、毎日来ていると
いう方もいます。
今回は外国人も多く、刀装具を
数多く持参して時代や流派、作者
など細かいところまで質問してい
ました。また、いわゆる刀剣女子
も来会しました。

参加者は午前中早い時間に来ら
れる方が多く、あまり待ってもし
らうわけにもいかず午前中に集中し
たため、ご迷惑をおかけした当番理
事もおられたかもしれせん。時
間設定や割り振りなどは今後の課
題だと思えます。

九州からのお宝鑑定のために
飛行機でわざわざ来られた方が二
組いました。敬意を表したいと思います。
(赤荻稔)

出店者から 木村隆志(永楽堂) 初出店で学んだお客さまとのやりとり

本紙の編集会議のときに突然、
眞賀副理事長と清水専務理事から
「大刀剣市に出ない？」とお誘い
を受けました。
組合に加入させていたいただいて
だ一年と少し、いずれはと思っ
てはいましたが、一流店に交じっ
ての出店など時期尚早。でも、せ
うかとお誘いを受けたのだから、勉
強だと思っただけでみるか...と決
心しました。

さき本番、ネットでもいつも買っ
ていただいているお客さまに遠方
から来ていただいたり、カタログ
を見ての電話問い合わせも結構
あったりしたので、それなりに期
待していましたが、思ったほど動
かず、展示即売会で売ることの難
しさを痛感しました。
それでもおかげさまで、会期後
の売上まで含めるとまずまずの結
果となりました。今回は少し無
理をして出店しましたが、大変良
い経験をさせていただきました。
また先輩方には、いろいろご指
導いただきました。本当にありが
とございました。



永楽堂の木村さんと女性スタッフ

ただし、今回はあまり印
象的な場面がなかったこと
も否めません。それと、業
界の事情から、評価鑑定が
もう一歩踏み込めなかった
ことが、もどかしく感じら
れたのも事実でした。
いずれにしても、三日間
滞りなく終了できてほっと
しています。ご協力ありが
とございました。
(赤荻稔)



「我が家のお宝鑑定会」でご持参の刀を解説する評価鑑定委員

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 **飯田高遠堂**
代表取締役 飯田慶雄
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本
松本 富夫 義行
〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950
www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株)日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座 **泰文堂**
〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階
(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏
TEL 03-3563-2551
FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037
<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀 剣 界



風向計

其之二十三

深海 信彦

年が改まると決まってその年の世界や日本を占うキーワードが語られ、あらゆる団体や企業等もスローガンを新たに一年の進むべき道程を定める。さて、わが刀剣業界にとっては今年一年、どのような年になるのだろうか。

今までは、どのような年になるかは、世界や日本の政治・経済情勢まかせ景気まかせ、いわば他方本願あるのみで、業界自らの発展への努力は等閑に付されていたように思える。

自分が身を置く業界・社会が、他業種・他社会に負けず劣らない繁栄を願わない者はいない。しかし、その発展の方法を見極めるのは困難であり、たとえ最良の着想が浮上したとしても、実現には多大な努力と、これに携わる人が時間的犠牲を強いられることになる。しかも、犠牲を払った本人には直接的な利益や報酬はなく、さほど遠くではないにしても将来の業界・刀剣社会に多大な利益をもたらすものであることから、これからの若い世代や後継者を慮る立場にある人以外には、余計なことであり、そんな将来のことよりも、今現在の商売のことが何倍も重要であろう。

それでも、困難をものともせず、自らの努力で刀剣社会の発展、ひいては刀剣商の地位向上を目指して発起したのが現在の組合の理事を中心とした心ある人たちである。彼らが掲げるキーワードは「資格」であり、スローガンは「新時代に即した刀剣商たれ」である。

先日の『読売新聞』一面「編集手帳」の記事中に、タイタニック号が冰山との衝突で船体にヒビが入り、やがて折れて沈没したことに関する最近の新聞として、出航前に造船所で起きた火災によって船体が脆くなり、衝撃に耐えられなかったことを挙げていた。このような重大事故につながりかねない損傷や欠陥を隠蔽したことによって千五百人の命が奪われたという憎むべき結果の紹介の書き出し部分に、落語の「道具屋」のくだりが引用されている。

入りに、やがて折れて沈没したことに関する最近の新聞として、出航前に造船所で起きた火災によって船体が脆くなり、衝撃に耐えられなかったことを挙げていた。このような重大事故につながりかねない損傷や欠陥を隠蔽したことによって千五百人の命が奪われたという憎むべき結果の紹介の書き出し部分に、落語の「道具屋」のくだりが引用されている。

ゴミ捨て場のガラクタさえも商道具屋が、一本のノコギリを前にして言う。「火事場の焼け跡から拾ってきたんや。サビを落として油塗って、柄の焦げたんを付けて替えたんや。まア並べといたらどこぞの阿呆が買っていくてなもんじゃない。」

ノコギリの不良品なら人命に影響はないが、大型客船の偽装修理が人の命を奪った例に引用されたものである。筆者に「道具屋」を貶める意図はなかったであろうが、江戸時代以来の「道具屋」のイメージの一端を窺わせるものであり、古美術品を扱うわれわれにとっては何れも禁じ得ない話である。

現代においても、高額な骨董・古美術品を扱う一流業者でも「道具屋」と呼ばれ、刀屋も一般には骨董屋の範疇である。一般でなくともそもそも刀屋には何の資格も許可もなく、必要なのは、実際は警察の管轄であるところの公安委員会発行「古物商」許可証と、外で商売する際の「行商許可証」である。今は電話帳を見る人は少なくなってきたが、職業の欄に「刀剣商」や「刀剣鑑定業」はなく、もちろん研師も輪師も、白銀師もない。世の中に、何の肩書もない職種など他にあるだろうか。

昭和二十四年に制定され平成七年に大幅改正された「古物営業法」に基づく「古物商」の呼称は、「古道具商」「道具屋」と何の変りもない。「古物商」とは、衣類、自転車、時計、宝飾品、写真機類、書籍、道具類、自動車、皮革・ゴム製品類、それに金券類等の十三項目に区分され、その中の一つが「美術品類」である。美術品類も多種多様であり、一般には骨董屋さんと呼ばれる所以ではあるが、少なくとも、日本の歴史を担ってきた武士階級の表道具である刀剣類を扱う刀剣業者は「刀剣商」と呼ばれるべきであり、「刀剣鑑定士」「刀剣等評価鑑定士」などの称号や資格があっても当然であろう。相応の学習も必要ではあるが、その資格を得ようとする課程こそが大切であり、多くの知識をあらためて自分のものとするにより、自己の営業にも役立つものである。

か、来年から先はどうなるであろうかよりも、われわれ自身の手で業界の地方を向上させる、今年はその元年になるであろう。

蛇足ながら、「風向計」の筆者は、平均して毎週一回、体力維持のために、千葉県にある芝生を敷き詰めた広大な練習場に十年間通っている。夏休みや五月の連休、それに年末・年始には近くに泊まり込み、終日トレーニングに励んでいる。

多くのメニューの中にタイヤ曳きがある。汗が噴き出るので主に冬場にこのトレーニング方法を採用しているが、カーレース用の幅40cmを超えるホイール付きのタイヤの上に、重量を増すため土嚢を乗せた100kgに及ぶタイヤを土の上で曳き摺るのはかなりの体力・筋力・持続力を必要とする。往復100mを前向きで一回、後ろ向きで一回を一セットとして一日何回か行すが、好天が続いて土が乾燥している時はやや軽く感じるが、雨上がりや、早朝の霜が溶け始めたころは、タイヤが土にのめり込んで重い。今年も例年通り年末からタイヤ曳きを始めたら、冬場のタイヤ置き場は一番乗りで、夏以来誰も曳いていないその場所の土は畑のように盛り上がり、タイヤは滑りにくいどころか、小石や草の根が張った凹凸の地面はタイヤ痕が蛇行する。

しかし、一回二回と同じ道を引けば、前回引いた轍は土が押されて滑りやすくなってきて、回数を重ねるごとに軌跡とタイヤの重量で土は引き締まる。新しく道を拓くのは困難であっても、誰かが踏み開き足で固めた軌跡を掛けば、後に続く者の道は平坦である。

今、業界が直面している新しい試みも、まさにこの重い土をかき分ける作業なのであろうと思いつつ、腰骨にベルトが食い込むタイヤを曳くのであった。

奈良県のある大学では、「文化財歴史学科」という通信教育部を設けているが、学生の半数が六十歳代で、学芸員資格取得の道もあるという。二十代から八十代の人々が「もう一度学びたい」との思いで受講していると聞く。われわれ刀剣商も、日々の営業の中であらためて関係法令・刀剣知識・評価鑑定知識を高め、名実共に「刀剣商」の社会的地位向上と、営業力の強化を図りたいものである。今年の景気の動向はどうである

前ページから続く

お客さまインタビュー

「風林火山」を見て好きになった日本刀

「大刀剣市」によるこそお越しいただきました。この催しは何

中野怜美さん(横浜市)

「大刀剣市」によるこそお越しいただきました。この催しは何



銘切りに見入る中野怜美さん

「大刀剣市」は、今や屈指の刀剣イベントとして世界中の愛好家の間で定着しています。ところで、居合のキヤリアはどれくらいになりますか。

「大刀剣市」は、今や屈指の刀剣イベントとして世界中の愛好家の間で定着しています。ところで、居合のキヤリアはどれくらいになりますか。

ました。もっとも、狩猟同好会と掛け持ちでしたが…。四月からは社会人になったのを機に、「慧剣会」という道場に通っています。

「刀に興味を持つきっかけも居合ですか。」

「大刀剣市は、今や屈指の刀剣イベントとして世界中の愛好家の間で定着しています。ところで、居合のキヤリアはどれくらいになりますか。」

NEWS & TOPICS

横島忠弘氏の絵画が作品展に入賞

栃木県小山市在住の当組合員・横島忠弘さんは、同市の第四十回思桜会会員作品展絵画部門に出品し入賞、市民センターで展示されるとともに、去る十二月九日、表彰式で銅賞が授与された。



銅賞を受賞した横島さん(右端。左から三人目大久保小山市長)

被災地熊本で銃砲刀剣類の発見届相次ぐ

熊本地震で被災した家屋から日

県警によると、十月末時点の届け出は県内全二十三署で一五〇件(昨年一二三件)に上った。熊本市内で特に被害が大きかった熊本東署二八件(同一二八件)と熊本南署二二件(同一二二件)、西原村や大津町を管轄する大津署は一九件(同一〇件)、全平塚の家屋数が五七〇〇棟を越す益城町を管内に持つ御船署は一七件(同一五件)と、

いずれも昨年一年間の合計を大きく上回っている。

各署によると、「震災で荒れた自宅の片付けをしているときに見つけた」「家の解体作業中に出てきた。先祖が持っていたことを知らなかった」などの届け出が相次いでいるという。刀や脇指などのほか、火縄銃も。第二次世界大戦中の製造とみられる軍刀が見つかり、処分を求める申し出も複数あった。

『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に3号分を無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で購読を希望される方は、お名前・送付先・電話・メールアドレス(あれば)を書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。(事務局)

「登録証問題」を考える 6

この『刀剣界』で登録証問題を連載して久しい。本紙は都道府県教育委員会にも送付されており、われわれの苦勞は彼らにも認識いただいている。既に現登録制度の問題に直面した刀剣愛好家や刀剣商の四苦八苦がいくつも紹介されており、実情は広く理解されたと考へる。

教育委員会の各担当者にも発行者側の苦勞があるようで、彼らから同情や励ましの手紙が組合に届いては、編集員一同使命感を新たにしている。個人的な印象ではあるが、この連載の効果もあつたか、都道府県教育委員会の対応が良い意味で変化してきたと思われ。

それにしても不備のある登録証が尽きることなく、われわれ刀剣商の負担は依然重い。それでもコンプライアンスを徹底する姿勢は、日本刀に対する世間一般の印象を改善するために必要と感じ、法令を遵守している。

その姿勢を貫こうと頑張っているが、最近残念な事例二件を経験した。

事例⑩

一件は、昭和二十六年登録、清人の元治年記、一尺二寸の平造り、『豊前守藤原清人』所載刀であり昭和三十三年の特別貴重刀剣であった。ところが裏年記の記載漏れ

と刃長が一尺一寸となっており、一寸測り間違いがあった。

そのため申請して、所在する県の現物確認を行った。その結果、「現物と一致することを証明できないので、あなたの県で新規発行手続きを取るべし」との判断。無銘刀ならいざ知らず、著名刀工の在銘・所載刀・三十三年認定書で誤記の確認は証明し得ることを説明したが、受け入れられない。

結果に納得できず、当該県の教育委員会に対して行政不服審査申し立てをしたが、第三者や専門家による再審議が行われることはなく、所管する教育委員長名による同じ主張が回答されてきた。

事務側のミスによる登録証の新規発行は、現物と一致しないことが証明された場合にのみ求めらるべきと考へる。

事例⑪

もう一件は、昭和三十年登録、在銘刀、登録証番号が本来16263であるべきところ、106263と記載されていた。昭和三十年は発行登録証番号が五桁であると言われ、当方にある過去取引した当該教育委員会の登録証管理番号データを調べた。すると発行日に近い登録番号があり、0が誤記入されていることが判明した。

その番号16263で確認すると、台帳と登録証の記載事項はすべて一致した。現物の実寸法も一致している。登録証記載時の単純なミスに疑いはない。そこで登録証の訂正発行を求めると、「登録審査会での現物確認が必須」と言う。「単純な誤記入であることが判明したのに、なぜ現物確認を行わなければならないのか。本件に関して現物確認を行う必要性

刀剣・宝飾品・高級腕時計・タイヤ
紀伊国屋

代表
松浦孝子

〒372-0812
群馬県伊勢崎市連取町一八三六一
TEL 〇二七〇-二六七八七八
FAX 〇二七〇-二六七八七八

は乏しく、こちらの手間負担が重すぎる」と善処を要望した。

すると登録証画像の送付を求められ、送付すると、「登録証が改ざんされている」と言われる始末。登録証紙に改ざんの形跡は全くなく、筆跡からもすべてが同一人物による記載であることに疑いはない。こちらを黙らせるための口上であろうか。これ以上の説明は無駄であることを痛感した。

現行の登録証作成において、誤字・脱字や計測の読み違いなど人為的なミスの根絶は不可能である。問題はそのミスがとも多いことと、そのミスの訂正を依頼すると例外なく現物確認を求める教育委員会の態度・方針である。今の状況では、問題のある登録証を積極的に直そうとする馬鹿正直者は希少となつてくるであろう。

どうすればこの登録証問題を大きく改善できるのだろうか。例えば、組合の交換会開催日に登録証現物確認審査の出張審査会を開催したり、公益財団法人日本美術刀剣保存協会と登録証現物確認審査の業務代行を可能にしたり、関係諸機関に協力を仰ぎ、具体的な施策を働きかけたりしてみてもどうか。

申請者ファースト、申請者目線で登録証問題を考へることが今の時代の要請ではないだろうか。都道府県教育委員会と一体になり、問題軽減に取り組めることを切望している。

(登録証問題研究会)

刀剣類の「所有者変更届」その狙いと変遷

銃砲刀剣類登録証(以下「登録証」)が最初に交付されたのは昭和二十六年(一九五二)だから、その歴史は今年で六十七年を迎える。既に二百五十万点の登録証が交付されているが、六十七年間に登録証の内容はさまざま理由により少しずつ修正されてきた。

例えば登録証の紙質であるが、当初は世相を反映し、質素な藁半紙に印刷された粗末なものであった。現在では上質な紙に加えて表面がラミネート加工され、修正や訂正ができないように工夫され、ほぼ恒久的なものに改められた。

記載内容も昔は「脇差」「脇指」「わぎさし」などごまちな表現であったが、今では「刀」「剣」以外はすべて平仮名表示となり、長さや反りも寸尺からセンチメートルに統一されている。このように登録証も時代とともに少しずつ変化してきた。

今回、刀剣商にとって最も関心の高い「所有者変更届」について質問が寄せられたので、簡単に説明させていただきます。

登録証の裏面には注意事項が記されているが、昭和二十六年から交付された当初のものには、所有者変更についての記述はない。

今こそ所有者変更届を出せば相続や譲渡が簡単にできると思われているが、当初はそうではなかった。あくまで申請者のみに所有が認められたのである。

しかし、時がたち、申請者が死亡したり、さまざまな理由により譲渡したい旨の要望が高まり、昭和三十一年代初年から登録証を交付した都道府県の教育委員会に所有者変更届を提出することにより、相続および譲渡が可能になったのである。

登録証を人間に例えれば、まさに戸籍謄本のようなものである。交付した教育委員会としては、現在誰が所有しているか把握をしておかなければならない。そのため、相続や譲渡により所有者が変更になった場合、直ちに所有者の住所・氏名の確認が必要なのである。改正以降の登録証の裏面の注

意書きには、次のように記されている。

一、銃砲又は刀剣類を譲り受け、若しくは相続し、(中略)た場合には、すみやかにその旨を登録の事務を行った都道府県の教育委員会に届けなければならない。

当時は期日の点において「すみやかに」とあり、やや曖昧な表現であったが、その後、昭和四十年に暴力事犯の多発化の傾向等に鑑み、「治安上の見地から」という理由で取り締まり強化が図られ、そのときに「すみやかに」から「二十日以内」に届け出をしなければならぬことになった。

その後、さらに、登録証裏面の末尾に次の文言が追加された。

一、以上の各事項に違反した場合、法により懲役又は罰金の刑に処せられる。

現在、所有者変更に伴い、さまざまな問題が発生している。膨大な数の登録証の中には、わずかながらも不備なものがあることは事実である。

登録証の交付された刀剣類は、「美術の対象と認められたもの」と明記してあり、鉄の文化財と言えらるものである。今後、日本刀を恒久的に伝えるためにも登録証は必要であり、過去に交付された登録証の中で不備なものは、所有者変更の機会に正確なものに訂正しなければならぬ。そのために、申請者および教育委員会等の諸官庁が協力し合い、変更届がスムーズに履行されることを切に願っている。

東京都教育委員会では平成二十一年六月付にて警視庁生活環境課との連名で「銃砲刀剣類の所持等に関する注意事項」を配布している(別掲)。参考にしていただきたい。

(冥賀吉也)

銃砲刀剣類の所持等に関する注意事項

銃砲刀剣類所持等取締法は、銃砲や刀剣類の所持等に関わる市民生活上の危険防止を目的に施行された法律です。正当な理由なくして持ち歩くことは禁止されています。(銃刀法第21条) 銃砲刀剣類の所有者や銃刀取扱業者・従業員が守るべき事項は、以下の通りです。

- 不正な意図をもって銃砲刀剣類の取得手続きを行ったり所持許可を受けた者は、三年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処せられます。(銃刀法第31条の十六)
- 登録された銃砲刀剣類を譲り受けたり相続した場合、二十日以内に届け出をしなければならないことになっています。手続きを怠ったり虚偽の届出をした者は一年以下の懲役又は三十万円以下の罰金に処せられます。(銃刀法第32条三号)
- 銃砲刀剣類を運送業者に運搬委託する場合や保管を委託する場合は、銃砲刀剣類に登録証を付けて搬送・委託することになっています。違反すると六月以下の懲役又は二十万円以下の罰金に処せられます。(銃刀法第33条一号)
- 展示会等のために第三者に銃砲刀剣類を貸し出したり、安全のために第三者に保管委託する場合所有者は、都道府県教育委員会への届け出が必要です。(銃刀法第18条)
- 登録後の銃砲刀剣類を試験、研究、研ま若しくは修理のため、又は公衆の観覧に供するため貸し付け、又は保管の委託をした場合に限って、届け出を要しません。(銃刀法第17条)
- 登録証だけを第三者に譲り渡すことは出来ません。(銃刀法第18条3項) 譲り渡した場合は、二十万円以下の罰金に処せられます。(銃刀法第35条1項2号)
- 虚偽の届け出を行ったものや銃砲刀剣類の取得後意図的に手続きを怠った場合、当該銃砲刀剣類を没収されることがあります。(銃刀法第36条)
- 法人の代表者又は代理人、使用人その他の従業者が、不正な意図をもって銃砲刀剣類の取得手続きを行ったり所持許可を受けた場合は、人又は法人に対し三年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処せられることとなります。(銃刀法第37条)
- 手続きが必要な場合は、次の通りです。
 - 蔵などから発見したり遺品の中から銃砲刀剣類が出てきたとき(事件性の無いもの)
 - 登録証の盗難・紛失・滅失をしたとき
 - 第三者から銃砲刀剣類を譲り受けたとき
 - 所有者の住所を変更したとき
 - 銘や目釘の数、長さなど登録内容を変更したとき
 - 銃砲刀剣類を第三者に貸し付けたり保管委託した場合
 - 銃砲刀剣類を輸出(短期間の海外展示を含む)するとき
 - 刀剣の製作(刀匠に限る)をしようとするとき
- 登録された火縄銃や日本刀は、日本の伝統文化継承の一翼を担うものです。所有者は文化財の継承者としての自覚を持って、適切な保管・管理をお願いします。

平成21年6月

東京都教育委員会／警視庁生活環境課

刀 剣 界

平成29年1月15日発行(隔月刊)

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。



草分さんの秘密の釣り場はココ

草分一雄(草分堂)の釣り場は、山奥の静かな場所。釣り道具を並べ、静かに待つ。草分さんは、釣りに対して深い知識と経験を持っている。この場所は、多くの釣り愛好家にとっての聖地である。



釣りの宝庫

草分一雄(草分堂)



板橋区立郷土資料館にて山田伶門氏と。左手には大筒が見える

山田伶門氏は、郷土資料館で展示されている大筒について詳しく説明している。大筒は、江戸時代から使われていた武器で、その構造や使い方は非常に興味深い。山田氏は、大筒の歴史や文化について詳しく話している。

今日の俺の行き先は板橋方面。目的地の区立郷土資料館は埼玉の手前、高島平にある。首都高五号線を下っていくと、高島平のカーブを曲ると、高島平の森、そこはかつての赤塚城、高島秋帆が西洋砲術のデモンストレーションをしたのもこの地だ。

シヨウちゃん、健脚商売

東京都板橋区 編

少年のころの釣りの思い出は、小さな水たまりのような池が点在し、周辺にアシが密集するところ。仰ぎ見れば巨大な富士、釣り上げるのはハヤばかりだが、微妙な手の振動は忘れ難い。ずいぶん長い間、縁がなかったなあ。今、御殿場の秘密の場所、釣り糸を垂れている自分がある。まさに浦島太郎だ。

少年のころの釣りの思い出は、小さな水たまりのような池が点在し、周辺にアシが密集するところ。仰ぎ見れば巨大な富士、釣り上げるのはハヤばかりだが、微妙な手の振動は忘れ難い。ずいぶん長い間、縁がなかったなあ。今、御殿場の秘密の場所、釣り糸を垂れている自分がある。まさに浦島太郎だ。

うちのファミさんの父親が設計した庭園、四ツ葉町の水車公園で一休みしていると、そばにいた作業員さんたちが弁当を食べていた。そういえばもう夏だなと気づき、JR板橋駅の近く、豊島区と北区がもつれるあの一角に俺は漕ぎ出す。「焼肉処どん」だ!

軍奮闘している。この展示には刀剣類も含まれるそうで、こりゃ待ちきれん。氏のギャリトリートクも会期中三度あるそうで、当紙の催事情報、博物館レポートも待ってほしい。

愛車の背景は「焼肉処どん」の看板

足元が滑り、川面は黒々として深そうだし、ゴウゴウと音を立てて渦巻き、引き込まれそうで恐ろしい。

「こんなところでカッパの話なんてやめてくれ」。やっこの思いでタモを見つめ、帰還。

闘志に火が付き、安全運転忘れ追いつかなくて一言。「ゼエゼエ、君たち何年生だ?」「三年生です」。しめた! 「もう卒論のテーマは決まってるんだろな」。この一言が言いたかったのよ、エヘン。速度じゃ最近かなわぬしね。

先生「などと茶化すので俺は彼を「教授」と呼ぶ。何だかお勉強ができてなくて単位が怪しくなってきた学生が態度を急に変えるみたい。あつ、何と昼の営業はしていない。勝手にカルピやプルコギ定食を想像して

先生「などと茶化すので俺は彼を「教授」と呼ぶ。何だかお勉強ができてなくて単位が怪しくなってきた学生が態度を急に変えるみたい。あつ、何と昼の営業はしていない。勝手にカルピやプルコギ定食を想像して



「夢は香る」会場入り口

宮入小左衛門行平展「夢は香る」が日本橋高島屋本店において十一月二日から八日まで開催されました。刀、脇指、短刀など約二十点に、ナイフや文鎮などの小品も同時に出展されました。刀剣類はもちろんのこと、宮入プロデュースによる拵が十数点出品されました。中でも特に目を引いたのが、小柄小刀に合わせた小さな拵です。拵の刀剣と比べると少々高価になりますが、この小さくても随所に魅力が散りばめられたのが、小柄小刀に合わせた小

「こんなどころでカッパの話なんてやめてくれ」。やっこの思いでタモを見つめ、帰還。

「夢は香る」を観て心に思う
宮入小左衛門行平展「夢は香る」が日本橋高島屋本店において十一月二日から八日まで開催されました。刀、脇指、短刀など約二十点に、ナイフや文鎮などの小品も同時に出展されました。刀剣類はもちろんのこと、宮入プロデュースによる拵が十数点出品されました。中でも特に目を引いたのが、小柄小刀に合わせた小

組合こよみ (平成28年11~12月)

- 11月7日 銀座誠友堂にて大刀剣市に使用するLED電球の選定作業。出席者 嶋田理事・生野理事・大平将広氏
- 7日 銀座誠友堂にて『刀剣界』第32号編集委員会を開催(念校)。出席者 嶋田理事・生野理事・網取理事・深海雄一氏・土子民夫氏
- 11日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加37名、出来高5,395,500円
- 11日 東京美術倶楽部にて養護金配分委員会を開催。出席者 深海理事長・猿田副理事長・真賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤坂理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・網取理事・松本理事・持田理事
- 11日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第33号編集委員会を開催(企画)。出席者 深海理事長・真賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤坂理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・網取理事・松本理事・持田理事・土肥富康氏・土子氏
- 16日 東京美術倶楽部にて養護金配分委員会を開催。出席者 深海理事長・猿田副理事長・真賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・嶋田理事・佐藤理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・土肥理事・持田理事
- 18~20日 東京美術倶楽部にて第29回「大刀剣市」を開催。入場者1日目1,063名、2日目895名、3日目922名、計2,880名
- 24日 深海理事長・伊波常務理事・嶋田理事が評価査定のため公益財団法人日本美術刀剣保存協会を訪問
- 28日 清水専務理事・服部常務理事が春日部市に出張査定
- 12月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第33号編集委員会を開催(企画)。出席者 深海理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤坂理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・木村監事・木村氏・土肥氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加54名、出来高11,806,000円
- 17日 東京美術倶楽部にて第5回理事会を開催。出席者 深海理事長・猿田副理事長・真賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤坂理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・網取理事・土肥理事・松本理事・持田理事・大平監事・木村監事
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第33号編集委員会を開催(初校)。出席者 深海理事長・真賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤坂理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・木村監事・木村氏・土肥氏
- 22日 清水専務理事・服部常務理事・松本理事が産経新聞社を訪問、「明美ちゃん基金」に浄財30万円を寄託

「祈りのかたち」「清明」そして今回の「夢は香る」と、時々の心情を表した題をつけ、継続開催されています。私はこの初回の個展に招かれ、今まで背を向けていた刀鍛冶になろうと決めたのでした。それぞれのタイトルからもわかるように、刀を作るということ

初日にはレセプションが行われ、先に角川書店から『刀に生きる』刀工宮入小左衛門行平と現代の刀職人たちを上梓された作家の塩野米松氏から、取材時のエピソードなどが披露されました。また、お互いの先代からお付き合いのある、狂言師で人間国宝の野村萬氏から、先代を超える難しさとその必要性が語られました。そして、靖国神社宮司徳川康久氏の乾杯により、終始和やかな雰囲気の中でレセプションとなりました。

刀を作る行為は自主的・自由なものですが、私も自由の中で自分のあり方を探し、それを少しずつ自分の中に沈殿させ、静かに積み重ねながら、自分の内側を大きく大きく、それが作品に現れるような刀鍛冶になっていきたいと思っています。

刀を作る行為は自主的・自由なものですが、私も自由の中で自分のあり方を探し、それを少しずつ自分の中に沈殿させ、静かに積み重ねながら、自分の内側を大きく大きく、それが作品に現れるような刀鍛冶になっていきたいと思っています。

「夢は香る」を観て心に思う
初日にはレセプションが行われ、先に角川書店から『刀に生きる』刀工宮入小左衛門行平と現代の刀職人たちを上梓された作家の塩野米松氏から、取材時のエピソードなどが披露されました。また、お互いの先代からお付き合いのある、狂言師で人間国宝の野村萬氏から、先代を超える難しさとその必要性が語られました。そして、靖国神社宮司徳川康久氏の乾杯により、終始和やかな雰囲気の中でレセプションとなりました。

奈良市の春日大社は二十九日、宝庫にあった太刀の複製が、鎌倉時代後期に活躍した刀工「延寿派国吉」が作った名刀と分かったと発表した。未使用で保存されていたとみられ、貴重な発見となった。来年三月二十七日まで国宝展で展示中。

春日大社によると、一九三九年に宝庫の天井裏で見つかった太刀三振り、二十一年に一度社殿を大規模修理する際の「一式年造替」左機にさびを落として鑑定した。このうち全長約百七センチの太刀の柄に「国吉」と刻まれていた。延寿派国吉の刀は室町時代の將軍足利義教が愛用したという。

調査した東京国立博物館の酒井元樹主任研究員は「中世の刀で製作当初の姿が残っているのは極めて珍しい。国宝の刀剣と並べても遜色ない」と話した。

「東京新聞」平成28年11月30日

ブック・レビュー BOOK REVIEW

生きた言葉で明かされる刀職たちの仕事

『刀に生きる 刀工・宮入小左衛門行平と現代の刀職たち』 塩野米松 著 角川書店 定価一、九四四円(税込)

聞き書きの名人・塩野米松さんの『刀に生きる』が出た。本紙第二十九号に「高倉健さんと刀匠」と題し、宮入昭平・小左衛門行平父子と健さんの濃密なやりとりを記した長文を寄せられ、そこで終盤に差しかかっている本書の執筆にも触れていたから、発刊を楽しみにしていた方も多いだろう。一度お目にかかったことがある。多分いくら年長かと想像したが、実は同年代だった。大学で学んだのは、化学だという。わが国の伝統文化や技について書くとき、情緒に流れることを戒めるのは、そんな素地もあってのことだろう。最も印象に残るのは「木のいのち木のこころ」天・地・人」だ。宮大工の西岡常一とその弟子小川三夫の言葉からは、仕事と、それを通じた人の育て方、生かす方の神髄がにじみ出てくる。小川主宰する鶴工房の若者たちへのインタビューも爽やかだった。

名品の技に高精細デジタルで迫る『刀装具ワンダーランド』

川見典久著/黒川古文化研究所協力 創元社 定価二、四八四円(税込)

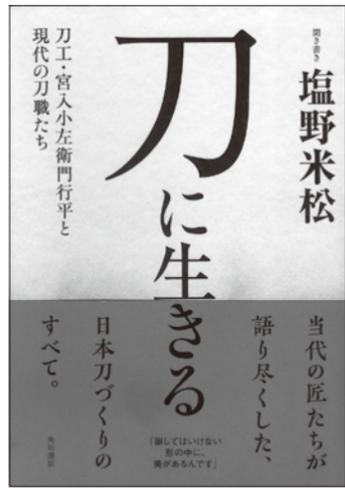
刀装具の本としては珍しい手法を用いているが、役に立つ本が出版されたので紹介したい。刀装具の美しさや楽しさは、われわれ業界の間は常に感じ取っているものだが、多くの人たちは刀装具を目にする機会もなく、たとえ鑑賞の機会があったとしても、肉眼では十分に確認できない。

この本では、高精細デジタル撮影という手段でもない代物を使って拡大写真で刀装具を表現しているのだ。特に縁に関しては、三六〇度の展開写真によって全体像を表現している。岩本昆寛「藻魚図大小縁頭」(これは鯉図だと思いが)、横谷宗与「獅子に牡丹図縁頭」、和田一真「四

刀装具ワンダーランド 日本刀の魅力を伝える本。刀装具の美しさや楽しさは、われわれ業界の間は常に感じ取っているものだが、多くの人たちは刀装具を目にする機会もなく、たとえ鑑賞の機会があったとしても、肉眼では十分に確認できない。この本では、高精細デジタル撮影という手段でもない代物を使って拡大写真で刀装具を表現しているのだ。特に縁に関しては、三六〇度の展開写真によって全体像を表現している。岩本昆寛「藻魚図大小縁頭」(これは鯉図だと思いが)、横谷宗与「獅子に牡丹図縁頭」、和田一真「四



ではない。人間国宝が絶対的な評価とも、技術保存の切り札とも思われないが行政には作刀と研磨のほかに仕事にも関心を持ってほしいものである。本書は広く読まれ、長く残ってゆく本である。本紙の読者にはぜひ読んでほしい快著である。(土肥寛)



アオバ企画株 高橋一 TEL 03-3621-1111 FAX 03-3621-1111

組合員の運営する交換会一覧

Table with columns: 期日, 名称, 開催地, 代表者. Lists various sword exchange events across Japan.

新栄会大会を大阪・箕面で開催 十二月六日、大阪の箕面観光ホテル・大江戸温泉物語、桂別邸において新栄会の大会が開催されました。

新栄会の歴史は長く、五十年近くになり全国でも数少ない古い会です。阪急百貨店で店を構えている中宮敬堂さんや、今の代表の先代の吉井哲夫さんらが中心となって始めた共同会です。昔から関西の生荷が出るので、東京はもちろん全国から業者が集まってくる市

場なのです。大会の後は宴会もセッティングされており、この宴会が関西ならではのもので、近年はこの宴会も大いに賑わっており、参加人数がどんどん増えているとか。新栄会の大会は、今回も盛況の内に幕を下ろしました。(土肥寛)

全国美術刀剣青年会大会を開催 爽やかな秋晴れの十月二十六日、静岡・熱海の大観荘において全国美術刀剣青年会の大会が開催されました。OBの方々をはじめ、四十名を超える多くの皆さまにご参加いただきました。不況下ながら

も想定を上回る出来高となり、会員一同深く感謝申し上げます。青年会は定款にも記されている通り、将来の刀剣商業界において公正適法な精神をもって明朗健全に活躍する人材を相互開発し、研修修練することを目的とし、交換会の運営に携わりながら、若手の会員が相互に研鑽し親睦を図る他にはない貴重な場となっています。

私どもは、冥賀亮典が代表幹事を務めさせていただいております。大会では恒例となりつつある発句・競りを通常の例会とは異なり、普段は経験の少ない若手の会員が行っていました。私も四年前に旗谷大輔先輩が代表幹事をされていたときに、初



全国美術刀剣青年会大会の競り風景



お客さまとのコミュニケーションが魅力の「みやこ刀剣祭」

刀 剣 界

江戸東京博物館「戦国時代展」 名門の滅亡と成り上りの歴史を知る

何だか大ざっぱに付けたタイトルのようですが、中身は濃い。

序章「時代の転換」、第一章「合戦―静寂と喧嘩」、第二章「群雄―翔け抜けた人々」、第三章「権威―至宝への憧れ」、第四章「列島―往來する人と物」、終章「新たな秩序」という展示構成である。戦国時代、日本列島を多くの人が、金が、物が翔け抜けていった様子を表しています(しかし、翔け抜けるなんて、こんな漢字で表すのは新しいな)。

まあ、われわれの鑑賞すべき一番のポイントは、第二章「群雄」でしょう。

小生が鑑賞したのは開催二日目に当たる十一月二十四日だったので、われわれから見ると敗者の側

にある浅井長政と斎藤義龍(斎藤道三の子)の座像が目飛び込んできた。

なるほど、これが「戦国時代展」なのであろう。

続いて織田信長・上杉謙信となるのだが、小生が一番楽しみにしていたのは、中国・北九州地区で壮絶な争いをしていた大内・尼子・毛利、そして陶という面々。

大内氏は三代当主義興の像がある。永正五年(一五〇八)前將軍足利義植を擁し、大軍を率いて京に上り、義植を復讐させた。自ら管領代として幕政を掌握し、山城守護を兼ねた。従三位・中納言・周防・長門・石見・安芸・豊前・筑前守護・管領代である。彼

も従二位兵部卿兼大宰大貳兼侍從・周防・長門・石見・安芸・豊前・筑前守護である。この義隆の時代に大内文化が爛熟して大内家は全盛期を迎えたが、文治政治に不満を抱いた家臣の陶隆房に謀反を起され、義隆は自害して、大内家は事実上滅亡する。

全日本刀匠会主催「第十一回お守り刀展覧会」 おなじみとなったポーランド共和国大使賞

備前長船刀剣博物館で、一月十二日まで全日本刀匠会主催の第十一回「お守り刀展覧会」が開催されている。

お守り刀展覧会は文化庁から後援をいただき、二会場以上で巡回展を行うことになっている。坂城町 鉄の展示館(長野県坂城町)での展示は昨年九月十七日〜十月三十日の日程で開催され、好評のうちに終了した。十一月十七日から会場を備前長船刀剣博物館に

移し、こちらも開会式・授賞式が行われた。

開会式には瀬戸内市長竹久頭也氏、日立金属株式会社相談役藤井博行氏、駐日ポーランド共和国大使館参事官トマシユ・ヤムロズ氏はじめ、多くの関係者の方が出席され、盛大な式典が執り行われた。

その後の表彰式では、文部科学大臣賞に川崎晶平、岡山県知事賞に根津秀平など主だった賞が授与され、また宗信安氏が新人賞に輝いた。お守り刀展覧会の新人賞は受賞者のみならず、その刀鍛冶を育てた師匠も表彰される。今回は、師匠であり父親でもある宗昌親氏とともに、日本伝統文化後継者育成支援協会代表理事事木村麻子氏より賞状を授与されることとなり、喜びもひとしおだったと思う。



お守り刀展覧会 開会式並びに表彰式

「お守り刀展」で受賞された皆さん

駐日ポーランド共和国大

中でも弘治元年(一五五五)陶晴隆(隆房)との厳島での戦いは有名だ。

戦国時代は、名門家系の滅亡の歴史であり、新興勢力ののし上がりの歴史とも言える。

東京展は一月二十九日まで、京都展は京都文化博物館で二月二十五日〜四月十八日、山形展は米沢市・上杉博物館で四月二十九日〜六月十八日、それぞれ開催される。博物館ごとに展示品も変わるようなので、ぜひご覧になっていただきたい。(持田具宏)



戦国時代展

全国美術刀剣会秋期大会を開催

全国美術刀剣会の秋期大会が十一月十六日、四年ぶりに大阪箕面観光ホテル・大江戸温泉物語で開催されました。

今はいずれも故人となられた中宮好郎・吉井哲夫・伊波富彦三氏の肝いりで毎年開催されてきた大会で、地元の秋祭りの太鼓の音を聞きながら盛大に行われていたことが懐かしく思い出されます。

温泉の経営は大江戸温泉物語に



全国美術刀剣会秋期大会の交換会

伊波賢一 会長のご挨拶の

春日大社の「金地螺鈿毛抜形太刀」復元記録を放映

東京国立博物館の特別展「春日大社 千年の至宝」が評判を呼ぶ中、去る十二月六日、NHK総合テレビでドキュメンタリー「春日大社 よみがえる黄金の太刀」が放送された。

世界遺産の一つ奈良・春日大社では昨年、二十年に一度の大規模修繕である第六十次式年造替が行われた。この機会に、ご神宝である国宝「金地螺鈿毛抜形太刀」が併せて復元された。

藤原頼長が奉納したこの太刀の

総長は九六・三センチ。柄は毛抜形を透かし彫りし、魚子地に蝶鳥文を配した宝相華唐草を彫り上げ、地板を伏せ、青金と覆輪を懸ける。金具類はすべて魚子地に蝶・鳥を配した宝相華唐草文を彫りする。鞘は沃懸地に螺鈿で竹林に群雀を追う猫を表す。部分的に毛彫りや、緑・白色の瑠璃を嵌装し、色調に変化を与えている。

経年劣化によって錆ついたこの太刀を復元するため、最新科学で分析した結果、外装金具の多くの部分にはほぼ純金が使われた、類を見ない豪華な刀であることがわかった。復元に携わったのは、月山貞利(刀匠)、本阿彌光洲(研師)・重要無形文化財保持者、宮島宏(白銀師)、高山一之(鞘師)、北村昭斎(漆芸家)・重要無形文化財保持者の五名ほかにも製作協力者がいたと推測される。平安時代のの名もない職人の技に現代の名匠たちが挑んだ三年間の記録である。

なお、本歌は昭和二十六年の国宝指定とともに神様の元を離れたが、代わって今回の復元作があらためて奉納された。

上越市が上杉謙信の愛刀「山鳥毛」を購入へ

新潟県上越市は、当地の戦国武将、上杉謙信の愛刀で国宝に指定されている太刀で「山鳥毛」と号される無銘一文字を購入する。昨年八月、村山秀幸市長が定例記者会見で明らかにした。

専門家による評価額が三億二千万円と高額なことから、市では市民や企業から広く寄付を募り、平成二十九年中に購入する方針だ

山鳥毛は刃長七九センチ、謙信・景勝の愛刀として上杉家に伝えられ、「三十五腰」の中でも一番の名刀と確認されている。昭和二十七年に国宝に指定された。現在は個人所有で、岡山県立博物館に寄託されている。一昨年は新潟県立歴史博物館を通じて、所有者が謙信ゆかりの地に太刀を譲

「山姥切国広」をゆかりの足利市で公開

「山姥切国広」(重要文化財、個人蔵)が三月四日〜四月二日、足利市立美術館で展示される。当地には会期中、全国からファンが殺到するとみられ、同市はキャラクター商品の販売、関連映画上映、託児所設置といった受け入れ準備を進めている。

山姥切は刃長約七〇センチ。天正十八年(一五九〇)、足利領主・長尾頭長の依頼で堀川国広が

特別展は「今、超克のとき。山姥切国広 いざ、足利」と題し、国広と足利との関わりを紹介。山姥切国広・布袋国広のほか、頭長宛ての徳川家康と北条氏直の書状など関連資料も展示する。講演会も予定している。

足利市立美術館 二二326-0808 14 栃木県足利市通二丁目一四七 〇二八四四三三三三三 http://www.watv.ne.jp/ashi-bi/

後、招待した地元刀剣商の紹介があり、総勢四十名により盛大に開会しました。初めての顔合わせの方々もおられ、東西の交流に貢献した大会となりました。今後いろいろな面で東西交流

(猿田慎男)

催事情報

■刀剣博物館

〒151-0053 東京都渋谷区代々木4丁目25-10 ☎03-3379-1386~8
http://www.touken.or.jp/index.html

代々木感謝祭 刀剣博物館開館50年にわたる寄贈名品展

日本刀は古来、武器という性質以外に信仰の対象や権威の象徴としての側面を持ち、また美術品として鑑賞的にもなっていました。廃刀令後、本来の日本刀の役割を終え、さらに第二次世界大戦後、日本刀は武器と見なされ駐留軍による没収の対象となり壊滅の危機に瀕しました。しかしながら、本間順治・佐藤貫一両氏らの活動により戦後の混乱を脱し、両氏を中心として昭和23年に美術工芸品としての日本刀の保存・鑑賞・研究・伝統継承のため日本美術刀剣保存協会が設立され、昭和43年には付属施設として刀剣博物館が設置されました。

この度、刀剣博物館は墨田区に移転することとなりました。ここ代々木の地に開館して約50年、この地で最後に開催する展覧会として、当館が所蔵する国宝や重要文化財等の名品を一堂に公開いたします。これらは当協会や刀剣界を支えてくださった多くの方々之恩寵により当館に寄贈され、当館の活動の基盤となって日本刀の保存・継承・普及に大きく寄与した作品群です。この展覧会ではご寄贈者とともに名品を振り返り、その懇志に厚く感謝申し上げますとともに、刀剣博物館のさらなる飛躍を祈念して開催いたします。

会期：1月5日(木)～3月31日(金)



■静嘉堂文庫美術館

〒157-0076 東京都世田谷区岡本2-23-1 ☎03-5777-8600(ハローダイヤル)
http://www.seikado.or.jp/

超・日本刀入門 ～名刀でわかる・名刀で知る～

武士の魂「日本刀」は、千年に及ぶ歴史の中で、武器として武人を鼓舞し、美術品としても鑑賞されてきました。近年ブームに沸きながら、しかし道具としても美術品としても身近ではない日本刀。「全部同じに見える」「どこを見ればいいのかかわからない」「専門用語が難しすぎる」といったさまざまな疑問やお悩みを徹底的に解決します！

国宝の手搔包永太刀をはじめとする選りすぐりの名刀約30振から、日本刀の主な見どころ一姿・刃文・鍛え肌の鑑賞や、刀剣の歴史や産地、戦国武将が所持した刀の逸話など、めくるめく刀剣の魅力に迫ります。

会期：1月21日(土)～3月20日(月・祝)



■東京国立博物館

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 ☎03-3822-1111
http://www.tnm.jp/

特別展「茶の湯」

12世紀ごろ、中国で学んだ禅僧によってもたらされた宋時代の新しい喫茶法は、次第に禅宗寺院や武家など、日本の高貴な人々の間に浸透していきました。彼らは中国の美術品である「唐物」を用いて茶を喫すること、また室内を飾ることでステイタスを示します。その後、16世紀(安土桃山時代)になると、唐物に加えて、日常に使われているものの中から自分の好みに合った道具を取り合わせる「侘茶」が千利休により大成され、茶の湯は天下人から大名、町衆へより広く普及していきました。このように、日本において茶を喫するという行為は長い年月をかけて発展し、固有の文化にまで高められてきたのです。

本展覧会は、主に室町時代から近代まで、「茶の湯」の美術の変遷を大規模に展覧するものです。「茶の湯」をテーマにこれほどの名品が一堂に会する展覧会は、昭和55年に東京国立博物館で開催された「茶の美術」展以来、実に37年ぶりとなります。

各時代を象徴する名品を通じて、それらに寄り添った人々の心の軌跡、そして次代に伝えるべき日本の美の粋をご覧ください。

会期：4月11日(火)～6月4日(日)



春日大社 千年の至宝

世界遺産の1つである奈良・春日大社は、奈良時代の初め、平城京の守護と国民の繁栄を祈願するため創建され、古くから鹿を「神の使い＝神鹿」として大切にしてきました。本展では、「平安の正倉院」と呼ばれる王朝工芸の名宝とともに、貴重な中世の刀剣類、武器・武具、春日信仰にかかわる絵画・彫刻などの名品の数々を一堂にご紹介します。

展示構成：第1章 神鹿の杜 / 第2章 平安の正倉院 / 第3章 春日信仰をめぐる美的世界 / 第4章 奉納された武具 / 第5章 神々に捧げる芸能 / 第6章 春日大社の式年造替

会期：前期展示＝1月17日(火)～2月12日(日)
後期展示＝2月14日(火)～3月12日(日)

※2月14日(火)～19日(日)には国宝の甲冑4領が展示されます。



■板橋区立郷土資料館

〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-35-25 ☎03-5998-0081
http://www.k5.dion.ne.jp/~kyoudo/index.html

武具繚乱—関谷弘道氏甲冑刀剣類コレクションを中心に—

板橋区立郷土資料館では、平成23年度に江戸時代の甲冑をテーマとした特別展「当世具足～家臣団の備え～」を開催しました。これは、15世紀半ばごろの板橋区に武蔵千葉氏が拠点とした赤塚城が存在したことや、現在の板橋区加賀地域一帯に加賀藩前田家の下屋敷が置かれたこと、さらには、現在、国内で数少ない国宝の鎧兜を修復・復元する甲冑師である三浦公法氏が区内在住であることから、武士の象徴である甲冑に焦点を当てたものでした。

今回紹介する関谷弘道氏甲冑刀剣類コレクションは、平成25年1月に68歳で亡くなられた関谷氏の遺言書を受けて寄贈されたものです。コレクションの総数は90点を超え、その多くは甲冑ですが、刀剣や西洋甲冑なども含まれます。本展では故関谷氏の寄贈コレクションの紹介を中心に、伝来や由緒の特定が可能な資料については説明資料を併せて展示し、現在、名もなきコレクションが歴史的背景を持った有意義な内容であることを明確にしたいと思います。

会期：1月21日(土)～3月26日(日)



■森記念秋水美術館

〒930-0066 富山県富山市千石町1-3-6 ☎076-425-5700
http://www.mori-shusui-museum.jp/

所蔵名品刀展 秋水の美Ⅲ

「秋水」とは、曇りなく研ぎ澄まされた日本刀を表す言葉です。日本刀は平安時代中期以降に武器として生まれましたが、その中に秘められた精神性と美術性から、現在まで日本を代表する芸術品として伝来してきました。

開館の初年度は、所蔵名品刀展「秋水の美」として、当館が所蔵する日本刀の名品を中心に1年間を通じて4回にわたり展示します。

第3期では、重要文化財指定の「一助成造」や尻懸則長の大小(重要美術品)、備前順慶(重要美術品)など大名家伝来の名刀をはじめ、越中国で活躍した宇多国房(重要美術品)や宇多国久の優品を展示します。また、日本刀から広がる美の世界として、刀装具や甲冑も併せて展示し、平安時代から今日に至る日本刀の持つ奥深い魅力について紹介します。

会期：1月5日(木)～4月16日(日)



■佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43 ☎055-975-7278
http://www.sanobi.or.jp

名刀は語る 磨きの文化

名刀が美しい輝きを放っているのは、鍛刀されてから今日に至るまでの数百年の間、絶えず磨き続けてきた人々がいたからです。この間、名刀は多くの人の手に渡り、それにふさわしい多くの物語が生まれました。「磨く」ことで輝きを得る刀と、名刀を持つことでそれに相応しい己になるべく自己を「磨く」人々がいたのです。

本展では日本人が培ってきた、磨くことによって素材の美しさを引き出す文化をテーマに、刀剣をはじめ、拵に使用される金工技法や漆工技法も含めご紹介いたします。

会期：11月12日(土)～2月19日(日) 一部展示替えあり。

前期11月12日～12月23日 / 後期1月7日～2月19日
特集展示：重要文化財 短刀 無銘 貞宗(名物太鼓鐘貞宗) / 大笹穂槍 藤原正真作(号蜻蛉切)



■河内國平一門展「光＝現代刀」

「光」をその作品の中に表現してきた日本刀。河内國平の門下で修業をし、その技術を受け継ぐ若手現代刀匠の展覧会。彼らは何を考へてどのような未来を目指しているのか。

出品：高見太郎國一・石田三郎國壽・小宮六郎國天・金田七郎國真

特別出品：河内國平

会場：銀座三越 本館7階ギャラリー

会期：1月18日(水)～24日(火)

問い合わせ先：(株)スタジオ仕組 ☎03-6434-5243



■河内國平展「光＝映＝現代刀」

会場：日本橋三越本店 本館1階中央ホール

会期：3月29日(水)～4月4日(火)

トークイベント：阿川佐和子×河内國平 4月2日(日)午後1時

問い合わせ先：(株)スタジオ仕組 ☎03-6434-5243



刀 劍 界

平成29年1月15日発行(隔月刊)

平成29年(2017)

謹 賀 新 年

本年もよろしくお願ひ申し上げます

掲載は申し込み順です

刀剣・小道具・鎧 刀剣杉田
代表 杉田 侑司
豊島区池袋2-49-15
TEL 03-3398-0114
FAX 03-3398-0114
661
メール info@token-net.com

刀剣・刀装具・刀剣用具・各種加工
(株)コレクション情報
代表取締役 村上 和比子
岐阜県岐阜市西部本郷1-49
TEL 058-274-1196
URL http://www.samurai-hipponet

刀美術 飯塚 賢路
〒337-0015
さいたま市見沼区蓮沼1-004-11
TEL 048-6688-2200
FAX 048-6688-2200
001

赤荻刀剣店
赤荻 稔
茨城県下妻市下妻乙172の5
TEL 0296-44-2643

札幌 横山美術
横山 忠司
〒060-0053
北海道札幌市中央区南三条東1-6
TEL 011-251-1765
FAX 011-251-1788

株式会社 刀剣柴田
柴田 光隆
〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-18
TEL 03-3573-2801
FAX 03-3573-2804
URL http://www.tokendata.co.jp

(株)日本刀剣
伊波 賢一
〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-18-11
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

つるぎの屋
冥賀 吉也
冥賀 亮典
東京都北区西ヶ原4-35-11
TEL 03-3576-1715
FAX 03-3576-8419

拵合せ致します
日本刀鞘師 水野 美行
〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町6-11
TEL 03-3335-3188
10

銀座誠友堂
中央区銀座5-11 銀座ファイブ2階
TEL 03-3558-8001
URL http://www.seiyudo.com

武蔵国一の宮美術刀剣骨董品居合道古式銃専門店
有限会社 清水商会
代表取締役 清水 敏行
〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町3-17
TEL 048-644-3477
FAX 048-647-7434
URL http://www.suirushouei.co.jp

株式会社 眞玄堂
〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町1-7-17
TEL 03-3252-7844
FAX 03-3251-1419

やしま 齋藤 雅稔
東京都西東京市柳沢6-18-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

やしま 齋藤 隆久
東京都西東京市柳沢6-18-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

優古堂
三浦 優子
東松山市高坂769-15
TEL 0493-3515559
FAX 0493-3512468

飯田高遠堂
代表取締役 飯田 慶雄
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
URL http://www.idakendo.com

株式会社 金丸刀剣店
金丸 一三
東京都大田区東雪谷2-28-10
TEL 03-3728-3323

株式会社 舟山堂
稲留 修一
東京都千代田区内神田2-4-13 石垣ビルB1
TEL/FAX 03-5297-8144

刀剣研師 白木 良彦
〒135-0045
東京都江東区古石場1-2-17
TEL 03-3643-3228

銀座丸英
瀬下 昌彦
東京都中央区銀座7-13-22 友野ビル1階
TEL 03-6264-0739
URL http://www.maruhideken.com
メール ginza@maruhideken.com

(株)丸英刀剣
瀬下 明
栃木県小山市乙女3-17-30
TEL 0285-4510158
FAX 0285-4518596

株式会社 泰文堂
川島 貴敏
東京都中央区銀座4-13-11 松崎ビル4階
TEL 03-3563-2255
FAX 03-3563-2255

株式会社 美術刀剣松本
松本 富夫
松本 義行
千葉県野田市清水199-11
TEL 04-7122-1112

研誠堂
石塚 孝夫
〒113-0034
文京区湯島1-2-11
TEL 080-5473-0055

刀剣古銭・切手・古美術品 売買
(株)城南堂古美術店
代表取締役 田中 勝憲
東京都目黒区上目黒4-31-10
TEL 03-3710-6776
携帯 090-3208-99612

売買、加工及びご相談承ります
大阪刀剣会
吉井 唯夫
〒542-0073
大阪府中央区日本橋2-7-11
TEL 06-6631-2210
FAX 06-6644-5464

美術刀剣 勝武堂
東京都中野区本町4-45-10
TEL 03-3381-3071
URL http://www.shoubudou.co.jp

甲冑刀剣・刀装具 福隆美術工芸
網取 譲一
東京都中央区銀座2-11-4
TEL 03-3541-8209

永和堂
朝倉 万幸
朝倉 忠史
長野県長野市南町1-13-6
TEL 026-228-0001

刀剣の店 玉山名史刀
玉山 祐司・真敏
岡山市北区田町1-11-11
TEL/FAX 086-227-4188
URL http://www.t-touken.com

御刀研磨処楽屋
研師 平井 隆守
岐阜県関市清水町
TEL/FAX 0575-2510928
メール onkatsuna@db.dion.ne.jp
URL http://www.hdion.ne.jp/~katanaka/

美術刀剣松山
福岡 光男
愛媛県松山市松前町3-13-11
TEL/FAX 089-1947-5177

刀剣・古美術 蔵田美術
代表 倉田 藤彦
東京都豊島区池袋4-23-6 702
TEL 03-3989-1857
FAX 03-3989-7529

刀剣・古美術 宗亨庵
村中 亨
富山県高岡市江尻1235-3
TEL 0766-2812220
FAX 0766-2812217

日本刀の 店主 小暮 昇一
名品名刀を販売
〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町香掛50-1
電話 0749-425106
TEL/FAX 090-3162-7641
携帯 090-3162-7641
URL http://www.goshuuya-shimizu.com

刀剣古美術古書画 (株)日宝
代表 田澤 二郎・数馬
〒252-0334
神奈川県相模原市南区若松6-15-62
TEL/FAX 042-744-1553
メール nippon-55@msn.biglobe.ne.jp

内曇砥刃引き・地引き採掘元
石原砥石工業所
石原 善之
京都市右京区嵯峨橋清水町12
TEL 0771-4410523
FAX 0771-4410308

服部美術店
東京都中央区日本橋3-15-12・2F
TEL 03-3274-5170

銀座 盛光堂
齋藤 恒
東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル
TEL 03-3569-2251(代)
URL http://www.ginzaseikodo.com

銀座長州屋

もちだ美術
持田 具宏
さいたま市中央区上落合1-9-4 447
TEL 048-855-4792

武家文化の美と心
刀剣ギャラリー 樹林
代表 森野 幸男
〒803-0812
北九州市小倉北区室町2-12-15
TEL/FAX 093-561-0449

刀剣・小道具・甲冑・売買・工作及び相談承ります。
株式会社 むさし屋
代表取締役 猿田 慎男
〒590-0025 大阪府堺市堺区向陵東町1-2-19
TEL 072-251-8600
FAX 072-257-2885
URL http://www.musashiya.co.jp

刀剣書画・骨董 虹雅堂美術舗
笠原 泰明
〒142-0063 品川区荏原2-17-13
TEL/FAX 03-3781-6582

美術刀剣 永樂堂
東京都葛飾区青戸4-28-15 1401
TEL 090-2630-0077

刀剣鑑定書発行業務
一般社団法人 倉敷刀剣美術館
理事長 佐藤 均
〒710-1101
岡山県倉敷市茶屋町173
TEL 086-420-0066

日本刀オークション 葵美術
鶴田 一成
東京都渋谷区代々木4-22-11
TEL 03-3375-1553
URL http://www.aoi-japan.jp

奈良県無形文化財保持者
月山 貞利
〒633-0073
奈良県桜井市大字茅原228-18
TEL 0744-4317330
記念館 4213230